

第2学年 道徳学習指導案

1 主題名 C- (10) 規則の尊重

2 ねらい 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にしようとする態度を育てる。

3 資料名 「黄色いベンチ」(出典「わたしたちの道徳 1・2年」)

4 主題設定の理由

(ア)ねらいとする道徳的価値について

低学年の児童は、学校という集団を通して社会の基本的ルールを学ぶ。集団で生活するためには、みんなが使う物は人に迷惑をかけたりせず自分の物と同様に大切に扱い、みんなが気持ちよく生活できるようにしようとする心構えを持たせることが大切である。この時期の児童は、自分の欲望のままに振る舞ったり自分勝手な行動をとったりしがちで、自己中心的な考えが強いため、人との関わりの中に自分が存在しているという認識がまだ弱い傾向がある。だからこそ、集団の中で生活するためには「迷惑をかけないこと」を出発点として、自分のわがままな言動が誰かに迷惑をかけたり嫌な気持ちにさせたりしないようにする態度を育てたい。

(イ)児童の実態

2年生となり学校にも慣れてきているので、先生の言うことや、学校のきまりは一通り理解し、守ろうとする児童が多い。しかし、自分本位な考えや行動を抑えられずに廊下を走ったり、友だちに迷惑をかけたりすることもある。また、学校では守っていても、下校時など教師の目が離れてしまふときまりを破ってしまう児童も数名いる。トイレの使い方でも問題が起こり、学年や学級で何度も指導を重ねた。子どもたちの認識として、きまりは「先生に怒られるから」「きまりだから」守るものだというところまでしか、考えが及んでいない。児童会の取り組みで「廊下を走らない」などのチェックをしていますが、走っている子は悪い子という意識だけで、どうしていけないのかということまで考えて注意をする児童は少ない。

このような実態をふまえて、ベンチに乗ってはいけないということだけでなく、どうして乗ってはいけないのかを登場人物の目線を通して考えさせたい。そして、自分たちの生活の中でもお互いが気持ちよく生活できるような行動を意識できるようにしたい。

(ウ)資料について

雨降りが続き、やっと晴れた日曜日。たかしとてつおは、ベンチを泥だらけにしていることにも気づかず、公園のベンチに上がって夢中になって紙飛行機を飛ばしていた。そこへ、女の子とおばあさんがやってくる。後から来てベンチに座った女の子のスカートが汚れてしまったのを見て、二人は、はっとするという内容である。

公德心の基盤にあるのは、不特定多数の他者への思いやりである。遊びに夢中になるあまり、そこに思いの至らなかった二人が何に気づいてはっとしたのか、二人の思いについて考えることができる資料である。

(エ)本時の中心となる手だて

本時では、写真や挿絵を用いて場面状況をつかませ、場面ごとに補助発問をする。始めに紙飛行機を

飛ばしている時の楽しい気持ちを想像させる。その後、女の子が困っている様子を見て変化した気持ちを想像して吹き出しに書く。それを学級で発表し合うことで、女の子への謝罪の気持ちだけでなく、公共物の使い方について考えを深められるようにしたい。

5 本時について

(1) 日時 平成29年10月31日(火)

(2) 場所 2学年各教室

(3) 本時の展開

	学習活動 ○発問	・児童の発言	☆評価 □留意点
導 入	1. 学校のベンチの写真を見て、物語の場面について想像する。 ○ここはどんなところですか。 ○今日はベンチで起こったお話です。	●座るところ。 ●学校にあるベンチ。	□学校のベンチ写真を掲示する。
展 開	2. 資料「黄色いベンチ」を読む。 ○ベンチの上から紙飛行機を飛ばす二人は、どんな気持ちでしたか。 ○女の子とおばあさんの様子を見た二人は、どのようなことを思ったでしょう。 ・ワークシートに記入する。 ・意見を発表する。	●楽しい。 ●もっと飛ぶといいな。 ●女の子が困っている。 ●悪いことをしたな。 ●みんなが使うところなのに、乗ってしまった。	□挿絵を掲示する。 □意見を板書する。 □挿絵を掲示する。 □ワークシート配布。 □一時的な謝罪ではなく、公共物をどのように使うべきかという意見に着目させる。 ☆ベンチをどのように使うべきだったか、考えている。(発言・ワークシート)
終 末	3. 公共物の使い方について考える。 ○みんなで使うものには、どんなものがあるかな。 ○どのように使うとよいか考えよう。 4. 教師の説話 公共物の使い方について教師が感じたことを伝える(良かったこと)	●掃除用具・ボール・水道・学級文庫・遊具・トイレなど ●大切に・仲良く・丁寧になど	□「わたしたちの道徳」P122・123に記入する。 ☆公共物をどのように使うとよいかを考えている。(発言・ノート)

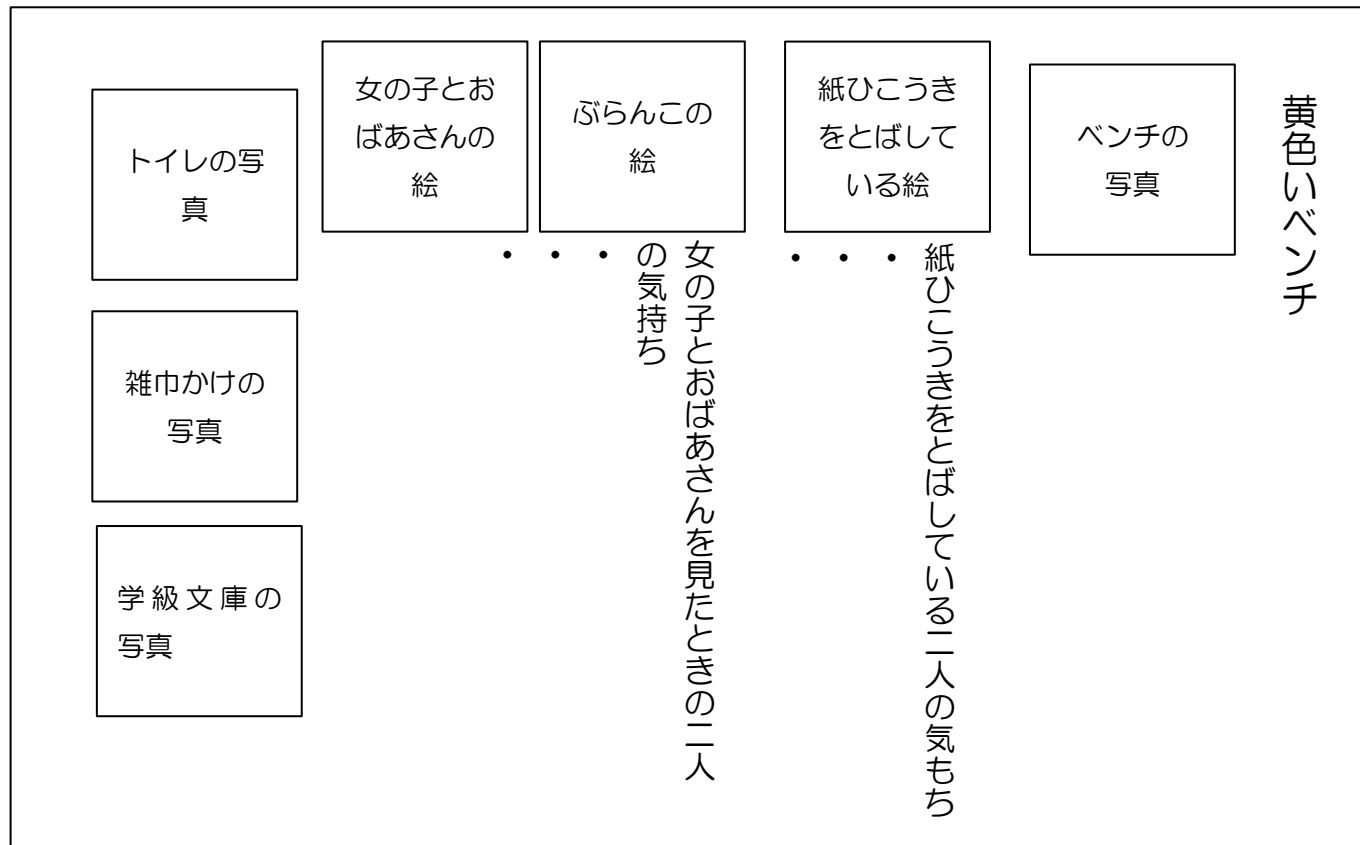
6 評価

・みんなで使う物を、どのように使えばよいか考えることができたか。(発言・ノート)

7 事後の指導

- ・学校生活の中で、きまりを守って行動できた場面を全体へ伝えていく。
- ・きまりが守れなかった時、どうしてきまりが必要なのかを問うようにする。

8 板書計画



9 成果と課題

○良かったところ

- ・具体的な写真があったので、自分たちの行動を振り返るのに役立った。
- ・ワークシートに自分の考えを記入できた。記入することで、考えを発表しやすかった。
- ・題材が子どもたちの実態にあったもので、分かりやすかった。
- ・授業参観にすることで、保護者にも道德の授業を理解してもらいよい機会になった。家庭でも道德の授業でのことを話題にしてもらい、道德的価値の理解を深めることができた。

○これからの課題

- ・本時の中では、みんなで使う物にはどんなものがあり、どのように使うのがよいのか理解しているようであった。それを日常生活の中で道德的実践力に結びつけていきたい。
- ・本時のねらいを達成するためには、主発問をどうするか、子どもたちへの声かけはどうか、考える必要がある。

○さらに研究したいこと

- ・本時のねらいに達成するための発問の仕方について
- ・自分の考えを深めるワークシートの活用の仕方について
- ・評価の仕方について

黄色いベンチ

年 組 番 名前

おばあさんと女の子の
ようすを見て、たかしくんと
てつおくんは
どう思ったでしょう。

Blank writing area with vertical dashed lines for handwriting practice.

